



図1 熊本地域と各観測地点の位置

(2) 各観測地点の風配図

収集したデータから、まず風速0.5m/s未満の場合は「無風」とし、次に「無風」状態を含めて100%となるようにした風向頻度をもとに風配図を作成した。風配図の上が北を指している。16方位それぞれの頻度を軸常にとり、線で結んだ。グラフの一番外側が40%を表し、目盛は10%刻みである。無風の頻度は各風配図の右下に表示した。各観測地点の一月ごとの風配図を図(省略)に示す。ただし、熊本港の10, 11月, 瀬田の1～4月は欠測のため表示していない。

(3) 風環境マップの作成

冬季として1月, 春季として4月, 夏季として8月, 秋季として10月を選び、それぞれの月の昼間(10～15時)と夜間(22～3時)の風環境マップを作成した。そのうち、夏季の風環境マップを図2と図3に示す。各地点における風配図を風環境マップの地図の周囲に示す。各風配図の左下の番号を表1中の番号と一致させてあり、これは地図上の各観測地点を示す番号とも一致している。風向は凡例(風環境マップの右下参照)のように16方位で表し、風配図右下に無風の割合を表示した。さらに、作成した風配図から全体的に考えて判断した各地点における主風向を地図上に矢印で表現した。矢印の始点の丸が観測地点を示している。ただし、瀬田(表1中の16)は1月が欠測のため代わりに12月のデータを、熊本港は10月, 11月が欠測のために9月のデータを使用した。

なお、図中の地図は国土地理院発行の二万五千分の一の地形図をもとに作成した。

6.4 まとめ

熊本地域を対象として、今後の建築・都市計画を考える上での基礎資料として熊本市を中心に20個所の観測データを用いて、風環境マップを作成した。その結果、以下のことがわかった。

- 1) 一年を通して、主に昼間は有明海側から吹いてくる西風, 夜間は阿蘇山側から吹きおろす東風が吹いている。
- 2) 阿蘇山周辺では昼夜を問わず年間を通して西風が吹いている。しかし、季節風の影響も受けて、夏は南に、冬は北に偏っている。
- 3) 熊本市中心部では、海陸風の影響もあるが、冬は北風, 夏は南風の季節風の影響をより強く受け